

最近の信用金庫と国内銀行の製造業向け類型別貸出動向

視点

我が国経済社会は、コロナ禍により一時失われていた日常をほぼ取り戻しつつある。製造業についても、供給制約の緩和により景況改善が進んできた。そこで、信用金庫の製造業向け貸出動向を概観し、国内銀行の動きと比較し、信用金庫の地区別動向を確認する。なお、製造業の中にも様々な分野が存在し、それぞれの動向は異なっていると思われる。ここでは、製造業を素材型、部品加工型、建設関連型、機械器具型、消費財型、その他の6類型に分け、それぞれ向けの貸出動向についても検討することにする。

要旨

- 信用金庫の製造業向け貸出金（末残、四半期ベース）の増減率（以下、増減率は前年同期比）は、2022年6月末を底にマイナス幅が縮小し、2022年12月末からプラスに転じたが、足元（以下、2023年6月末時点）で再びマイナスとなった。資金使途別寄与度は、設備資金が2022年3月末以降プラスで推移する一方、運転資金は、2021年12月末以降マイナスで推移している。製造業を素材型、建設関連型、部品加工型、機械器具型、消費財型、その他の6類型に分類し、足元までの貸出の動きをみると、ここ最近の全体の増減を左右しているのが部品加工型、機械器具型、その他であることを読み取れる。6類型別に状況を確認すると、素材型、部品加工型、消費財型、その他は、増減率、資金使途別寄与度ともに製造業全体と似た動きとなっている。建設関連型は、2022年6月を底に貸出の減少幅が縮小傾向にあるものの、足元でも前年割れの状況にあるが、設備資金は2023年に入り、前年比増加に転じている。機械器具型は、足元で唯一、貸出が前年水準を上回り、運転資金の寄与度もプラスであるなど、比較的堅調といえる。
- 国内銀行の中小製造業向け貸出金（以下、銀行勘定、信託勘定、海外店勘定の合計）の増減状況を振り返ると、2022年9月末に前年比プラスに転じて以降、増加率は高まる傾向にある。資金使途別にみると、設備資金は2022年3月末に、運転資金は2022年12月末に寄与度がプラスに転じており、運転資金寄与度の押し上げ幅は拡大傾向にある。国内銀行の中小製造業向け貸出の貸出金増減率および資金使途別寄与度の動きを6類型別にみると、2022年9月末以降全体の増加率が上昇傾向にある中、機械器具型と建設関連型以外の4類型が総じて堅調に推移している。なお、足元での押し上げ寄与度が大きいのは、素材型と消費財型である。素材型、部品加工型、消費財型、その他は、信用金庫の場合と同様、貸出金増減率、資金使途別寄与度ともに、中小製造業全体と類似した動きとなっている。一方、建設関連型向けの貸出は、足元で前年水準を割り込んでおり、機械器具型向けの貸出は、2022年6月末に前年比横ばいの水準まで回復したが、その後は4%前後のマイナスが続いている。
- 11地区の別に信用金庫の製造業向け貸出の状況を確認すると、足元で前年比プラスとなっているのは6地区（増加率が高い順に南九州、四国、東海、東北、中国、九州北部）であり、マイナスとなっているのは5地区（減少率が高い順に東京、関東、近畿、北陸、北海道）である。地区別に押し上げ寄与度が最も大きい類型を確認すると、最多の5地区で機械器具型となっている。地区別に足元で押し上げ寄与度が最大の種類の資金使途別寄与度をみると、運転資金は4地区でマイナスとなっている。

キーワード

製造業向け貸出 素材型 部品加工型 建設関連型 機械器具型 消費財型 その他

目次

1. 信用金庫の製造業向け貸出の動向（全体、6 類型別）
 2. 国内銀行の中小製造業向け貸出の動向（全体、6 類型別）
 3. 信用金庫との状況対比
 4. 地区別にみた信用金庫の製造業向け貸出の動向
- おわりに

1. 信用金庫の製造業向け貸出の動向（全体、6 類型別）

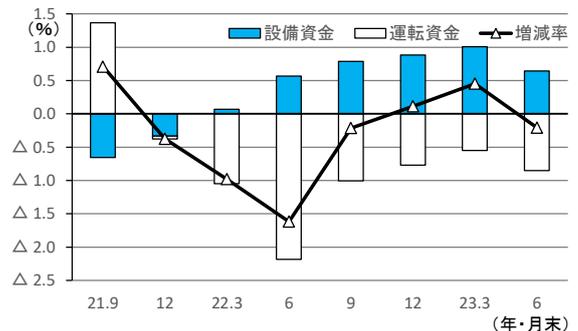
(1) 製造業全体

まず、信用金庫の製造業向け貸出金（末残、四半期ベース）の増減率（以下、増減率は前年同期比）と、資金使途別寄与度の推移を確認する。

貸出金増減率は、2022 年 6 月末を底にマイナス幅が縮小し、2022 年 12 月末からプラスに転じたが、足元（以下、2023 年 6 月末時点）では、再びマイナスとなった（**図表 1 参照**）。

資金使途別寄与度をみると、設備資金については、足元でこそ押し上げ幅が縮小しているものの、2022 年 3 月末以降、プラスで推移している。一方、運転資金の寄与度は、2021 年 12 月末以降マイナスで推移している。

(図表 1) 信用金庫の製造業向け貸出金増減率と資金使途別寄与度の推移



(備考) 図表 2～4 とも信金中金 地域・中小企業研究所作成

(2) 6 類型別

製造業は多様な業種からなり、業況や資金ニーズもそれぞれ異なると推察される。そこで、信金中央金庫 地域・中小企業研究所が公表している「全国中小企業景気動向調査」を基に、素材型、建設関連型、部品加工型、機械器具型、消費財型、その他の 6 類型¹⁾に分類し、貸出金の動きを概観した。

ちなみに、2023 年 3 月末時点における、6 類型それぞれの製造業向け全体に占める貸出金残高のウエイトは、**図表 2**の通りである。

2022 年 6 月末から足元までをみると、製造業向け貸出の増減を左右しているのが、部品加工型、機械器具型、その他であることを読み取れる（**図表 3 参照**）。以下、6 類型ごとに、貸出金の増減率および資金使途別寄与度の動きを確認する。

素材型、部品加工型、消費財型、その他は、貸出金の増減率、

(図表 2) 信用金庫の製造業向け貸出金に占める 6 類型別ウエイト

(単位：%)

類型	ウエイト
素材型	12.8
建設関連型	6.9
部品加工型	16.5
機械器具型	29.2
消費財型	15.6
その他	18.7

(備考) 2023 年 3 月末時点

¹⁾ 6 類型それぞれに含まれる製造業種は以下のとおり。

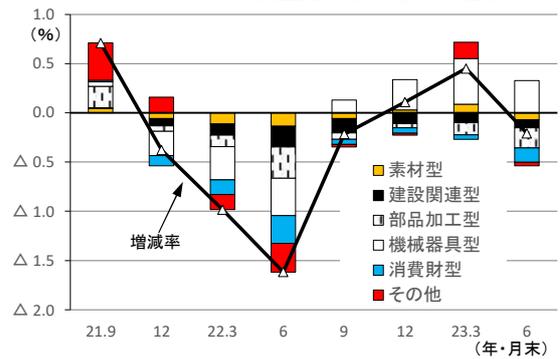
素材型（繊維、パルプ・紙、化学、石油・石炭、鉄鋼、非鉄金属）、建設関連型（木材・木製品、窯業・土石）、部品加工型（金属製品）、機械器具型（はん用・生産用・業務用機械、電気機械、輸送用機械）、消費財型（食料、印刷）、その他（例えばプラスチック製品、ゴム製品、革製品、楽器など多種多様なものが含まれている。）

資金使途別寄与度ともに、製造業全体と類似した動きとなっている（図表4①、③、⑤、⑥参照）。うち、部品加工型と消費財型の貸出は前年割れの状況が続いており、部品加工型は2022年12月末、消費財型は2023年3月末をピークにマイナス幅は拡大している。両者ともに足元、設備資金のプラス寄与度が縮小、運転資金のマイナス寄与度が拡大している。

建設関連型は、2022年6月末を底に貸出の減少幅が縮小傾向にあるものの、足元でも前年割れの状況にある。運転資金の減少には歯止めがかからないが、設備資金は2023年3月末から前年比増加に転じている（図表4②参照）。

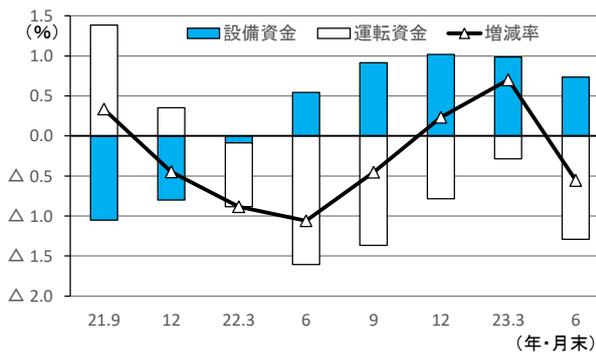
機械器具型は、足元で唯一、貸出が前年水準を上回っている。また、運転資金の寄与度もプラスとなっており、6類型の中では比較的堅調といえる（図表4④参照）。

（図表3）信用金庫の製造業向け貸出金増減率と6類型別寄与度の推移

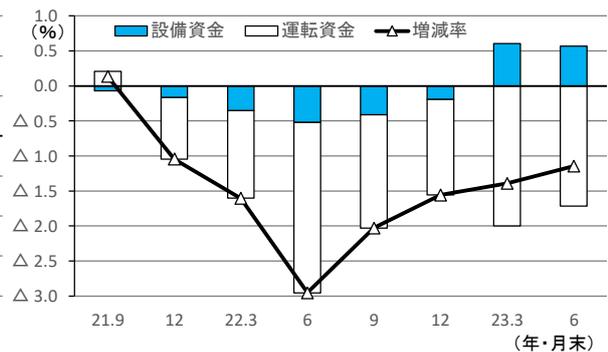


（図表4）信用金庫の製造業（6類型別）向け貸出金増減率と資金使途別寄与度の推移

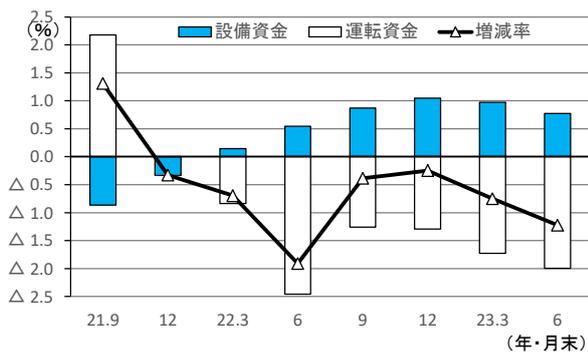
①素材型



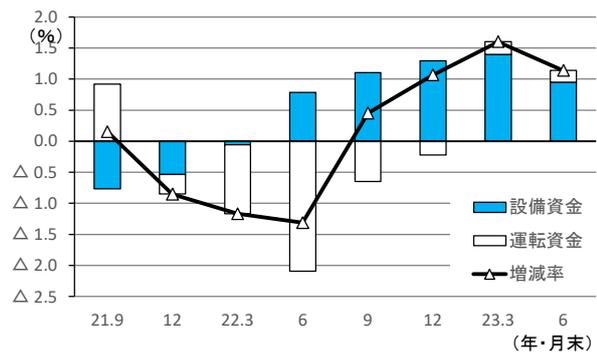
②建設関連型



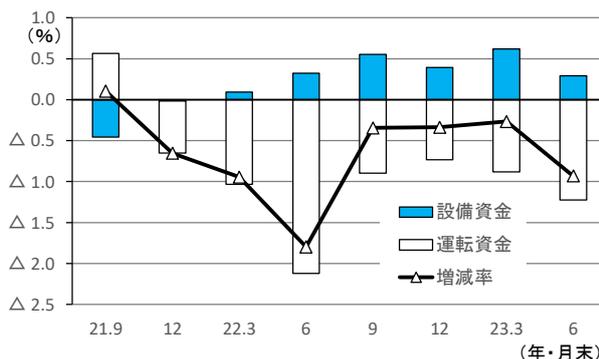
③部品加工型



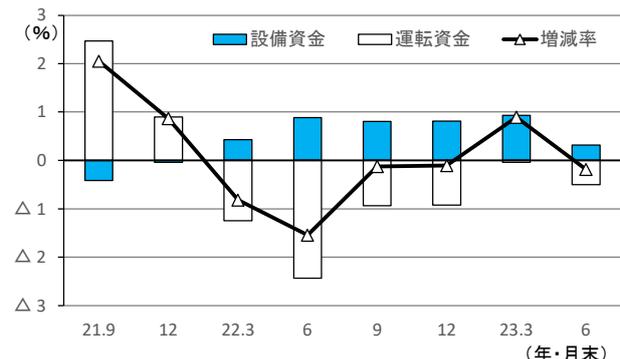
④機械器具型



⑤消費財型



⑥その他

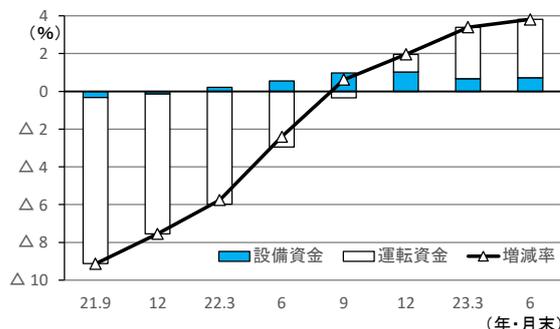


2. 国内銀行の中小製造業向け貸出の動向（全体、6類型別）

（1）製造業全体

国内銀行の中小製造業向け貸出金（以下、銀行勘定、信託勘定、海外店勘定の合計）の増減状況を振り返ると、2022年9月末に前年比プラスに転じて以降、増加率は高まっている（**図表5参照**）。資金使途別にみると、設備資金は2022年3月末に、運転資金は2022年12月末に寄与度がプラスに転じており、運転資金寄与度の押上げ幅は拡大傾向にある。

（図表5）国内銀行の中小製造業向け貸出金増減率と資金使途別寄与度の推移



（備考）図表6～8とも、日銀資料より信金中金 地域・中小企業研究所作成

（2）6類型別

以下、国内銀行の中小製造業向け貸出についても、6類型の別に動きを概観する。2023年3月末時点における、6類型それぞれの中小製造業全体向けに占める貸出金残高のウエイトは、**図表6**の通りである。

（図表6）国内銀行の中小製造業向け貸出金に占める6類型別ウエイト

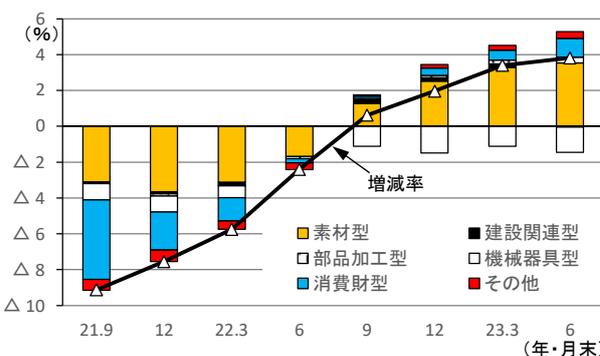
（単位：％）

類型	ウエイト
素材型	26.9
建設関連型	5.5
部品加工型	8.7
機械器具型	30.8
消費財型	18.6
その他	9.1

（備考）2023年3月末時点

前述のとおり、2022年9月末に前年比プラスに転じて以降、中小製造業全体向けの増加率は高まる傾向にあり、足元では、機械器具型、建設関連型以外の4類型が押上げに寄与している（**図表7参照**）。なお、足元での押上げ寄与度が大きいのは、素材型と消費財型である。

（図表7）国内銀行の中小製造業向け貸出金増減率と6類型別寄与度の推移



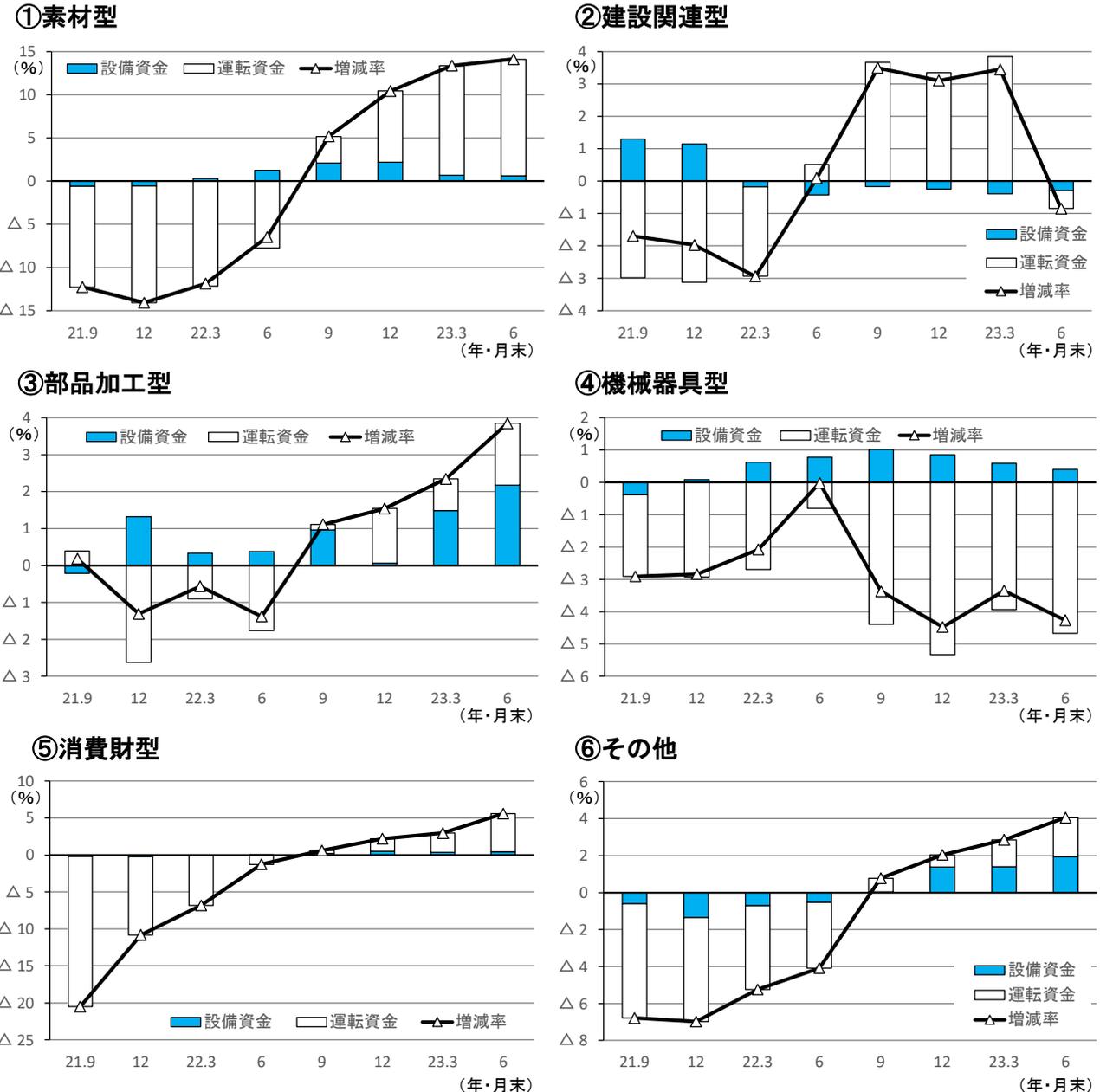
以下、信用金庫の場合と同様、6類型ごとに、貸出の増減率および資金使途別寄与度の動きを確認する。

素材型、部品加工型、消費財型、その他は、信用金庫の場合と同様、貸出金の増減率、資金使途別寄与度ともに、中小製造業全体向けと類似した動きとなっている。貸出金増加率は高まる傾向にあり、程度に差はみられるものの、設備資金、運転資金ともに押上げに寄与している（**図表8①、③、⑤、⑥参照**）。

一方、建設関連型向けの貸出は、足元で前年水準を割り込んでいる。設備資金は6四半期連続で押下げに寄与しており、運転資金の寄与度も5四半期ぶりにマイナスに転じている（**図表8②参照**）。

また、機械器具型向けの貸出については、2022年6月末に前年比横ばいの水準まで回復したものの、その後は4%前後のマイナスが続いている。設備資金は押上げに寄与しているものの、運転資金が大きく押し下げている（**図表8④参照**）。

(図表8) 国内銀行の中小製造業（6類型別）向け貸出金増減率と資金使途別寄与度の推移



3. 信用金庫との状況対比

本稿1、2にて確認したとおり、信用金庫では、機械器具型以外の5類型向けの貸出が足元で前年比マイナスとなっているが、国内銀行で前年割れとなっているのは、建設関連型向け、機械器具型向けの2類型のみとなっている。

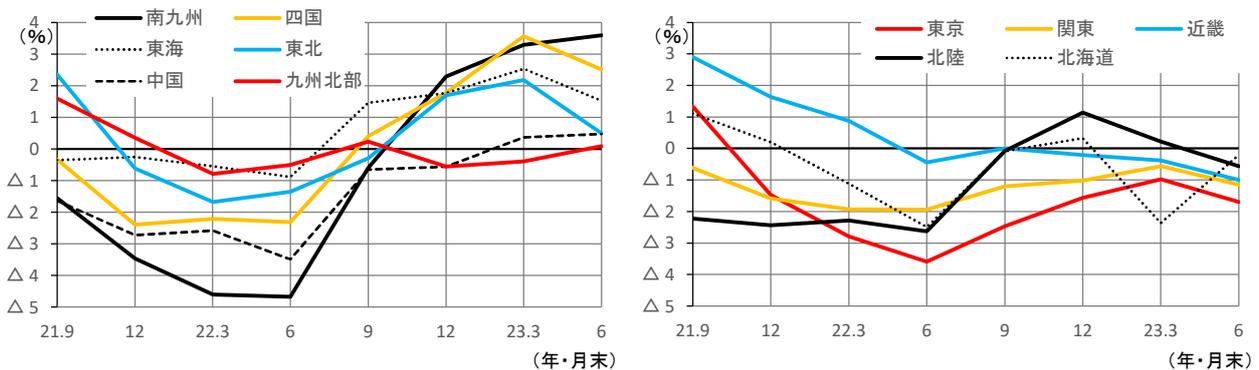
足元の状況を資金使途別にみると、信用金庫では6類型すべてで設備資金が押上げに寄与している一方、運転資金については、寄与度がプラスとなっているのは機械器具型のみとなっており、押下げ幅が大きい類型も散見される。国内銀行に目を向けると、設備資金は建設関連型以外の5類型で寄与度がプラスとなっている。この点は信用金庫に近い状況といえようが、運転資金の寄与度が建設関連型、機械器具型以外の4類型でプラスとなっているのが信用金庫と異なる動きといえる。

4. 地区別にみた信用金庫の製造業向け貸出の動向

(1) 地区別の製造業向け貸出の推移

11地区の別に信用金庫の製造業向け貸出の状況を概観する（図表9参照）。足元を確認すると、前年比プラスとなっているのは、増加率が高い順に南九州、四国、東海、東北、中国、九州北部の6地区である。このうち、四国、東海、東北は2023年3月末に比べて上昇率が低下しているが、南九州、中国は上昇率を高めている。なお、九州北部は足元でプラス転換を果たしている。一方、前年比マイナスとなっているのは、減少率が大きい順に東京、関東、近畿、北陸、北海道の5地区である。東京、関東では、前年割れの状況が比較的長く続いている。

（図表9）信用金庫の地区別製造業向け貸出金増減率の推移



（備考）図表10～20とも信金中金 地域・中小企業研究所作成

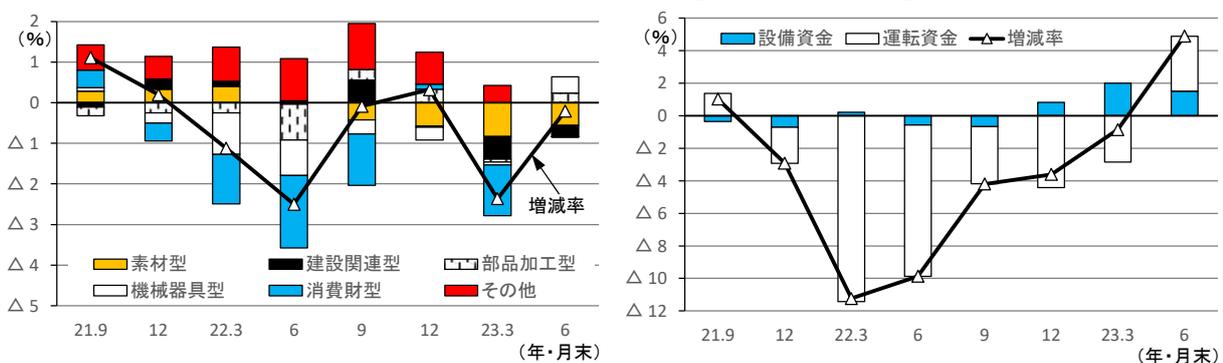
(2) 地区別増減率の6類型別寄与度と動向が注目される類型

以下、地区別に製造業向け貸出および6類型別の寄与度を概観するとともに、足元での押上げ寄与度が最も大きい類型について、増減率と資金使途別寄与度の動きを概説する。

イ. 北海道

足元で寄与度がプラスとなっているのは、部品加工型、機械器具型の2類型である（図表10①参照）。足元での押上げ寄与度が最も大きい機械器具型向けに注目すると、足元で設備資金、運転資金の寄与度がいずれもプラスになっている（図表10②参照）。

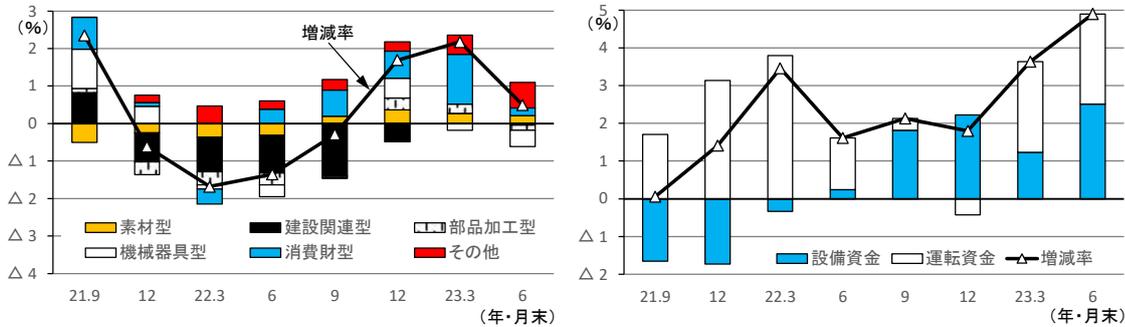
（図表10）北海道の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち機械器具型向け



ロ. 東北

足元で寄与度がプラスとなっているのは、素材型、消費財型、その他の3類型である（図表 11①参照）。足元での押上げ寄与度が最も大きいその他に注目すると、2023 年に入り増加率が高まる傾向にあり、設備資金、運転資金の寄与度がいずれもプラスになっている（図表 11②参照）。

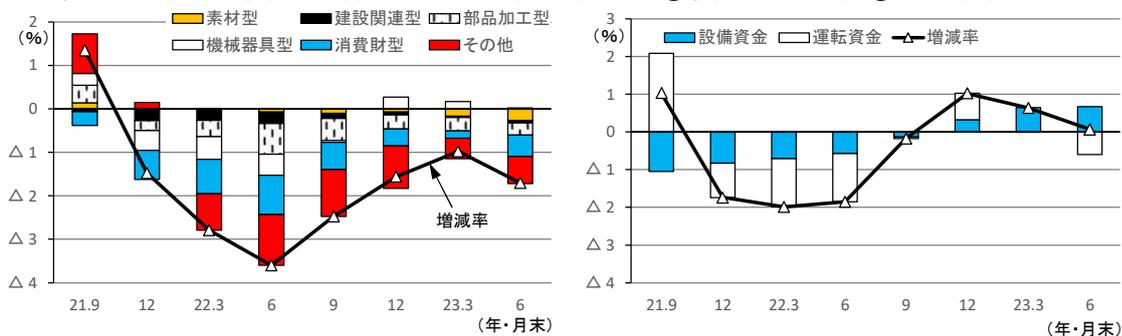
（図表 11）東北の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うちその他向け



ハ. 東京

足元、機械器具型のみ寄与度がプラスとなっているが、押上げ幅はごくわずかである（図表 12①参照）。機械器具型に着目すると、2022 年 12 月末から前年比プラスとなっているが、増加幅は縮小傾向にある（図表 12②参照）また、足元 2 期は運転資金寄与度がマイナスとなった。

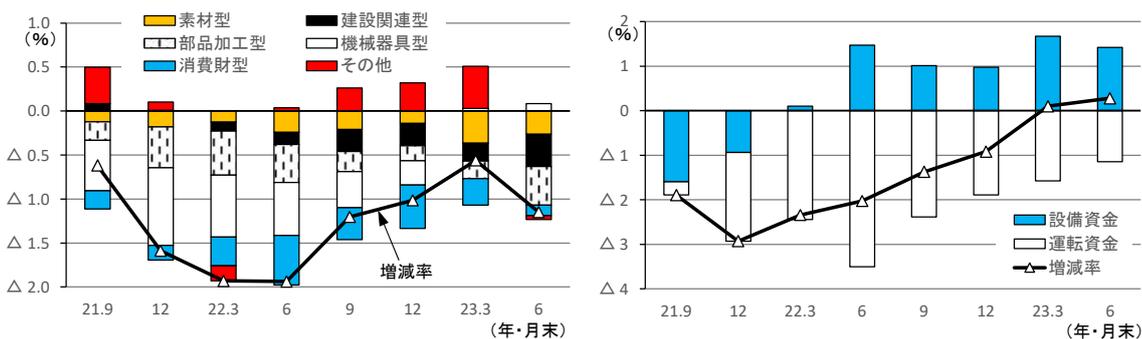
（図表 12）東京の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち機械器具型向け



ニ. 関東

足元、機械器具型のみ寄与度が若干プラスとなっている（図表 13①参照）。前期にプラス幅が大きかったその他は、わずかなマイナスに転じている。機械器具型向けは、2023 年 3 月末に前年比プラスとなり、足元、増加幅は拡大している（図表 13②参照）。足元で設備資金寄与度の押上げ幅が運転資金の押下げ幅を上回っている。

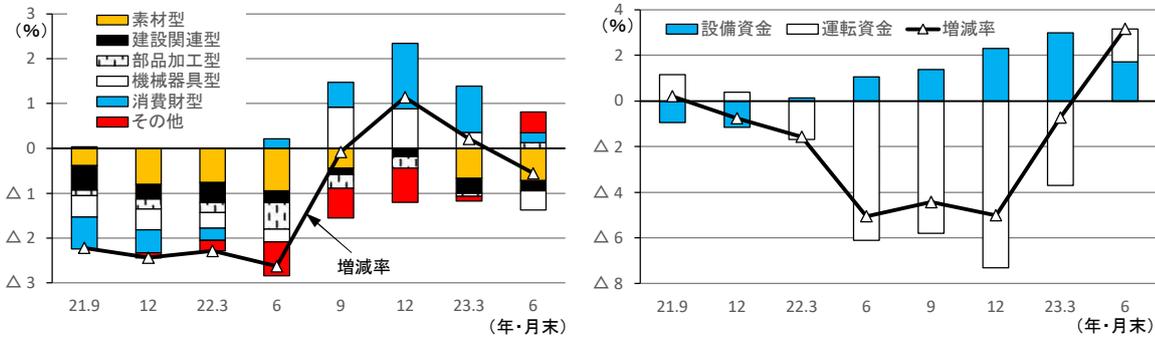
（図表 13）関東の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち機械器具型向け



ホ. 北陸

足元で寄与度がプラスとなっているのは、部品加工型、消費財型、その他の3類型である（図表 14①参照）。足元での押し上げ幅が最も大きいその他に注目すると、7 四半期ぶりに前年比プラスに転じている（図表 14②参照）。設備資金の寄与度が6 期連続でプラスとなっているのに加え、足元では運転資金も寄与度がプラスに転じている。

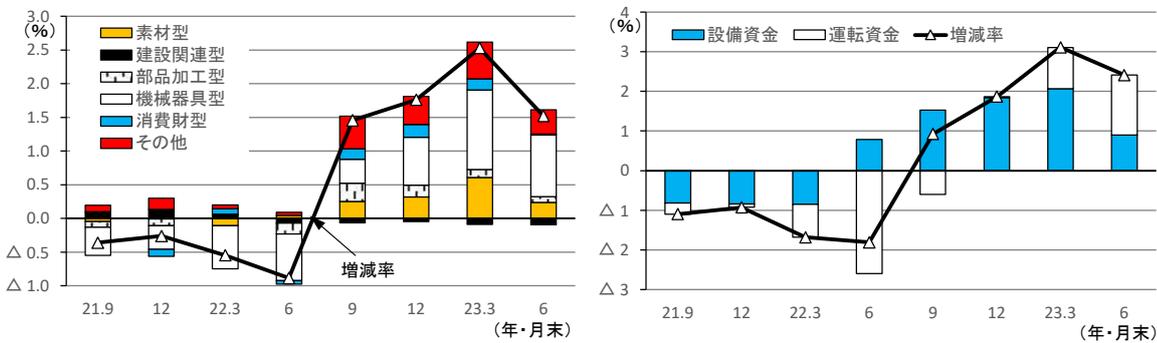
（図表 14）北陸の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うちその他向け



へ. 東海

足元、建設関連型を除く5 類型の寄与度がプラスとなっている（図表 15①参照）。足元での押し上げ幅が最も大きい機械器具型に注目すると、増加幅は、足元で縮小したものの拡大傾向にある（図表 15②参照）。設備資金、運転資金の寄与度はいずれも足元プラスであり、運転資金は押し上げ幅が拡大傾向にある。

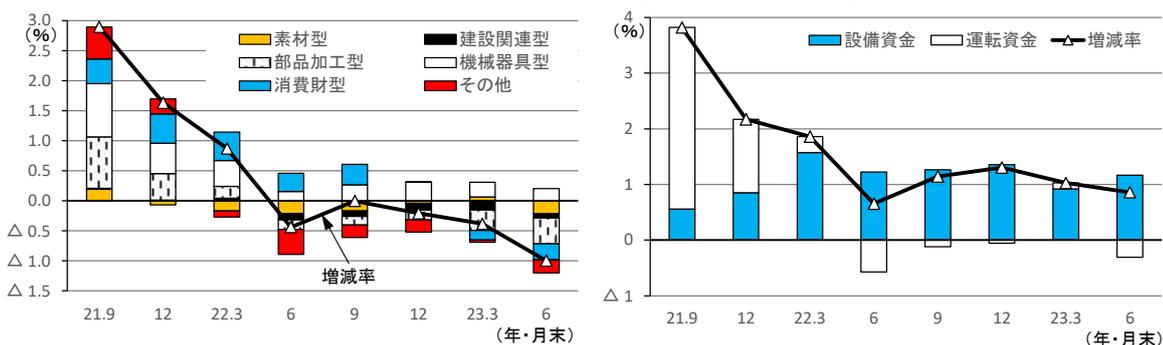
（図表 15）東海の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち機械器具型向け



ト. 近畿

足元で唯一寄与度がプラスなのは、機械器具型である（図表 16①参照）。機械器具型向け貸出金の増加率は、近年、1 %前後で推移している（図表 16②参照）。足元の運転資金寄与度は、前期にプラスに転じたが、再びマイナスとなっている。

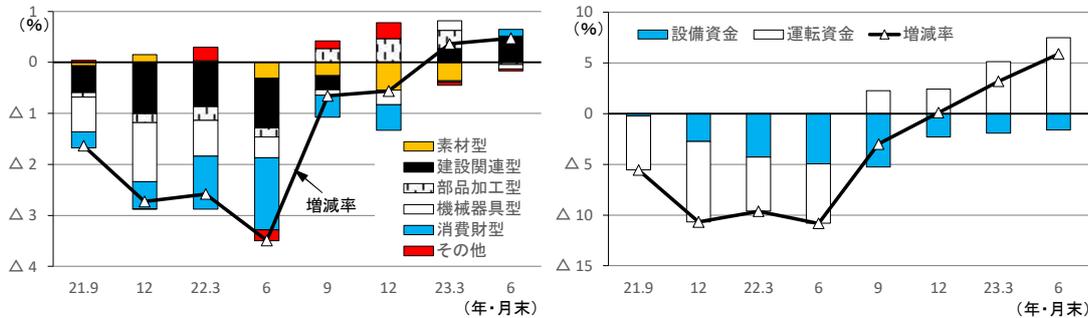
（図表 16）近畿の貸出増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち機械器具型向け



チ. 中国

足元で寄与度がプラスとなっているのは、素材型、建設関連型、消費財型の3類型である（図表 17①参照）。足元での押し上げ幅が最も大きい建設関連型に注目すると、増加率は高まる傾向にある。設備資金の寄与度がマイナスで推移しているものの、運転資金の押し上げ幅が拡大傾向にある（図表 17②参照）。

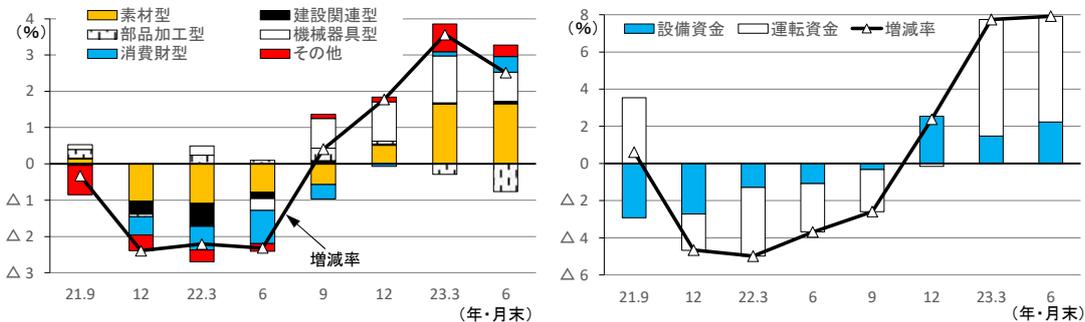
（図表 17）中国の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち建設関連型向け



リ. 四国

足元、部品加工型を除く5類型の寄与度がプラスとなっている（図表 18①参照）。足元での押し上げ幅が最も大きい素材型に注目すると、増加率が高まる傾向にある（図表 18②参照）。運転資金の押し上げ幅が前期に大きく高まったが、足元でも高水準を維持し、設備資金寄与度も3期連続でプラスとなった。

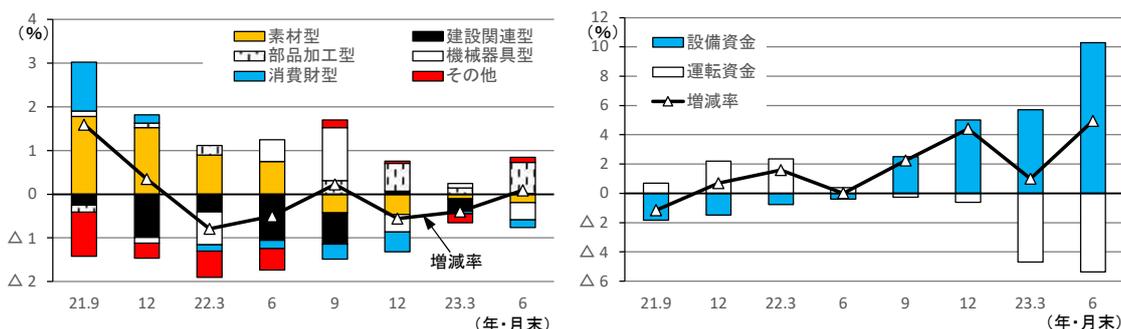
（図表 18）四国の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち素材型向け



ヌ. 九州北部

足元で寄与度がプラスとなっているのは、建設関連型、部品加工型、その他の3類型である（図表 19①参照）。足元の押し上げ幅が最も大きい部品加工型に注目すると、前年比プラスが続き、増加率も概ね上昇傾向である（図表 19②参照）。この1年間、運転資金の寄与度はマイナスとなっているが、設備資金の押し上げ幅が上回っている。

（図表 19）九州北部の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち部品加工型向け

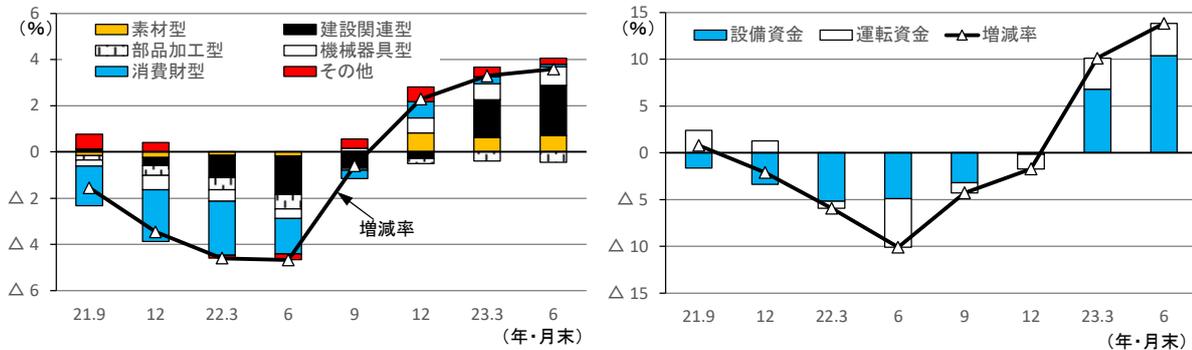


ル. 南九州

足元、部品加工型を除く 5 類型の寄与度がプラスとなっている（図表 20①参照）。

足元の押し上げ幅が最も大きい建設関連型に注目すると、貸出金は、2023 年に入り前年比プラスに転じ、増加幅も足元拡大傾向にある（図表 20②参照）。設備資金、運転資金の寄与度も同様の動きとなっている。

（図表 20）南九州の貸出金増減率と寄与度の推移：①製造業向け、②うち建設関連型向け



（3）まとめ

貸出動向を 6 類型別にみると、足元で押し上げ、押し下げに寄与している類型は地区によってまちまちとなっているが、本稿 1. にて、全国ベースの計数により堅調さが確認できた機械器具向け貸出は、5 地区（北海道、東京、関東、東海、近畿）で押し上げの寄与度が最大となっている。

一方、各地区において、足元で押し上げ寄与度が最大となっている類型の資金使途別の動きに注目すると、4 地区（東京、関東、近畿、九州北部）において、運転資金の寄与度がマイナスとなっており、もっぱら設備資金により前年比プラスを実現していることが確認される。

おわりに

以上みてきたとおり、信用金庫と国内銀行とで、中小製造業向け貸出の動向に差異が見られる。

資金使途別にみた場合、設備資金については信用金庫、国内銀行ともに前年水準を上回る状況が続いているが、運転資金に目を転じると、国内銀行では着実な回復傾向が確認できる一方、信用金庫では低調な状態が継続している。このことが、中小製造業向け貸出の前年比増減率の差となって表れている面もあろう。

また、6 類型別にみると、信用金庫では、機械器具型向けのみが堅調であるが、それ以外の 5 類型は、足元で前年水準を割り込んでおり、いずれも運転資金が押し下げの要因となっている。一方、国内銀行では、足元で前年割れとなっているのは建設関連型、機械器具型のみとなっており、それ以外の 4 類型では、設備資金、運転資金ともに前年水準を上回る状況となっている。

近々、ゼロゼロ融資の返済がピークを迎えるとの報道がなされている。世界経済減速の見通しなど、先行き注意を要する材料はあるものの、製造業を中心に、国内企業の設備投

資マインドは底堅く推移するとみられている。信用金庫においては、運転資金ニーズをいかに取り込んでいくかが一つのテーマとなってこよう。製造部門の生産増加に伴い、同部門の前向きな資金需要が拡大していくことを期待したい。

以上

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。